

若年性認知症支援力向上研修
実施報告

【日 時】 令和元年7月23日(火) 午前9時30分～11時30分

【場 所】 練馬介護人材育成・研修センター

【内 容】 「学ぼう！若年性認知症の人への支援について」

講師：練馬若年性認知症サポートセンター 赤堀 寛子 氏

【参加状況】 参加者：23名

アンケート提出者：23名(回収率：100%)

1 参加者の属性

通所サービス（介護職）	3名	13%
居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）	11名	48%
施設サービス（生活相談員）	1名	4%
地域包括支援センター（介護職・生活支援員・ケアマネジャー）	5名	22%
訪問サービス 介護職・サービス提供責任者	3名	13%

2 講演会の参考度

よく理解できた	13名	57%
理解できた	10名	43%
理解できなかった	0名	0%

仕事によく活かせる	12名	52%
活かせる	11名	48%
活かさない	0名	0%

満足度 10点	6名	26%
9点	7名	30%
8点	5名	22%
7点以下	5名	22%

3 感想（抜粋）

- ◇ 若年性認知症の人およびその家族の抱える問題点が理解できました。初期症状での対応が重要であることもよくわかりました。
- ◇ 早期サービス利用開始の必要性について感じました。多職種が連携を図ることで多くのサポート案が生まれることを期待して実践したいです。
- ◇ 若年性認知症のケアについて、チームケアで多職種と連携して関わっていきます。
- ◇ 色々な社会資源を家族に伝えていくことで、家族の精神面なども支えていく必要性を感じました。
- ◇ 家族サポートも重要であり、まだまだ学ぶことがたくさんあると感じました。
- ◇ 若年性の方に限らず、認知症は初期の段階から家族、知人、多職種の方々と関わりが大切であり、本人・家族に限らず、若い世代にも身近に知ることができるような仕組みづくりが大切であると思います。
- ◇ 若年性認知症の家族背景を知り、本人だけではなく家族も含めたサポートが必要であり、地域の資源を活用した連携が大事であることがわかりました。
- ◇ まずは、ご本人がどのような状況に置かれているのかを把握することが大切だと思いました。
- ◇ 若年性認知症の方へのアプローチや向き合い方について考えることができました。
- ◇ 若年性認知症の方のサービスが遅れがちになってしまうことを痛感しました。進行も早いので、少しでも地域の情報やつながり、サポート状況をケアマネとして知っておく必要性を感じました。
- ◇ 早期介入が必要とのこと、あらためて考えてしまいました。今関わっている方がちょうど中程度の方で、デイサービスに結び付けるのが大変です。正直なところ、サービスに結びつかないと、ケアマネとして関わりが薄くなってしまっているのが現実です。
- ◇ 若年性に特化した資源がまだまだ少ないということがわかりました。高齢の認知症は周囲、世間に広まっても若年となるとやはり理解や周知は低いなと思います。
- ◇ 若年性に気が付くことが、本人家族にとって難しいと感じました。
- ◇ 若年性認知症の家族の方の苦労など、少しわかったような気がします。声かけや見守りも大切だと思いますので、これからの仕事に活かせたらと思いました。
- ◇ 他の事業所の方、職種の方とのディスカッションが初めてのことで、大変勉強になりました。もっと時間をとってほしいと思いました。
- ◇ いろいろな方の視点や、連携先の情報が参考になりました。
- ◇ グループワークでの地域ケアシステムの考えも役に立ちました。
- ◇ 支援につながるまでの事例などをうかがえると嬉しいです。
- ◇ 実際に通所されている方の事例などあれば、話を聞きたかったです。